

七戸町民の男女共同参画 に関する意識調査報告書

平成25年6月 青森県七戸町

1 調査の目的と概要

◇調査の目的

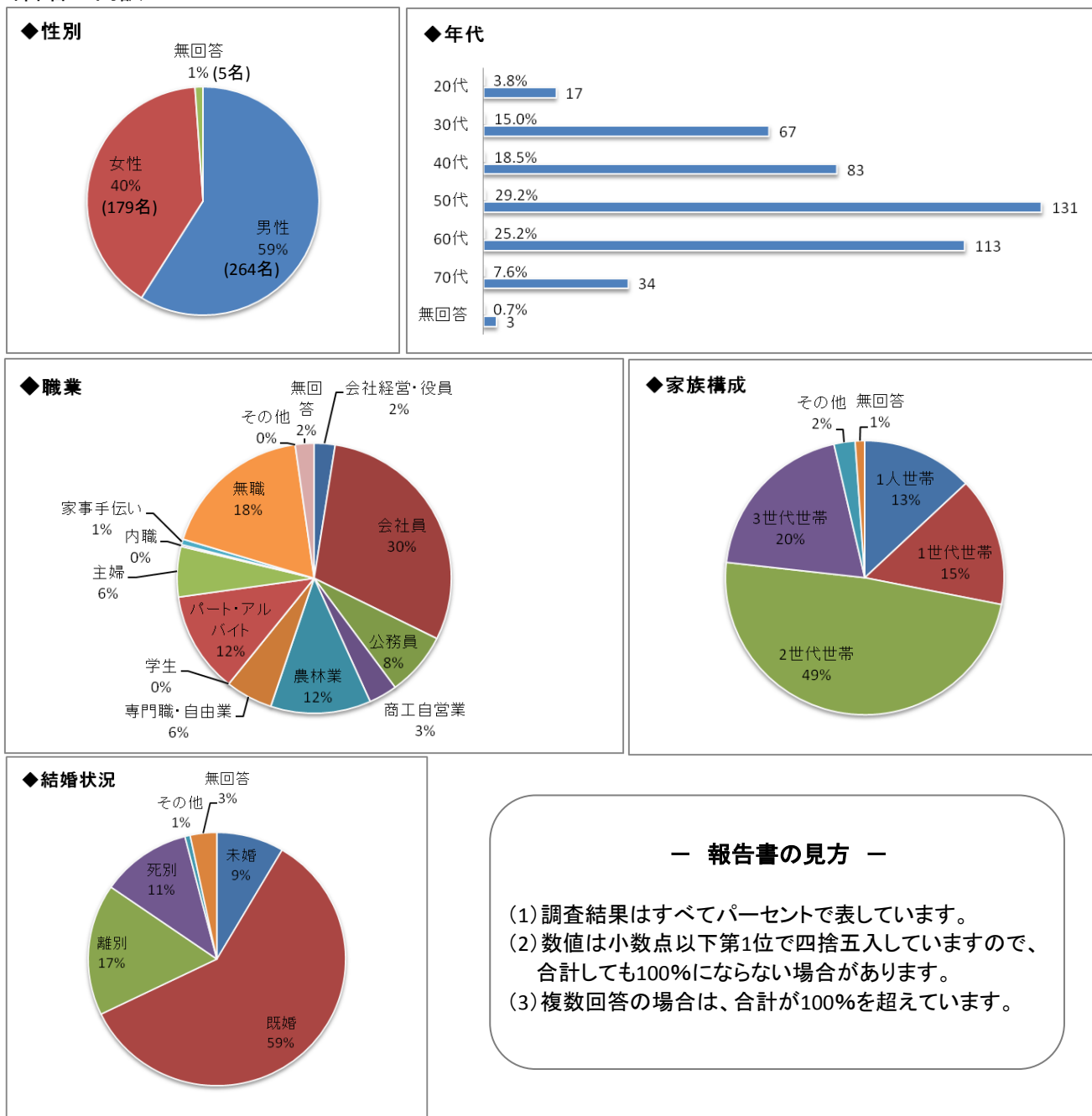
七戸町では、一人ひとりが持っている個性を大切にしながら、パートナーを思いやり、家庭や地域、職場などさまざまな場面で支え合い、安心して暮らせるまちづくりを目指して、平成21年3月に「七戸町男女共同参画基本計画」を策定しました。

これにあたり、住民の現状意識や男女共同参画行政に対する意見や要望等を把握し、今後の施策の参考とするために意識調査を実施いたしました。

◇調査の概要

- ・調査範囲 七戸町全域
- ・調査対象者 無作為に抽出した満20歳以上の町民1,000名
- ・調査方法 郵送配付、郵送回収
- ・調査時期 平成22年2月～3月
- ・調査内容
 - 1 男女平等意識について
 - 2 結婚・家庭生活について
 - 3 働くことについて
 - 4 子育てや教育について
 - 5 セクシュアル・ハラスメントについて
 - 6 ドメスティックバイオレンスについて
 - 7 男女共同参画社会について
- ・回収数及び回収率 448部(44.8%)

◇回答者の内訳

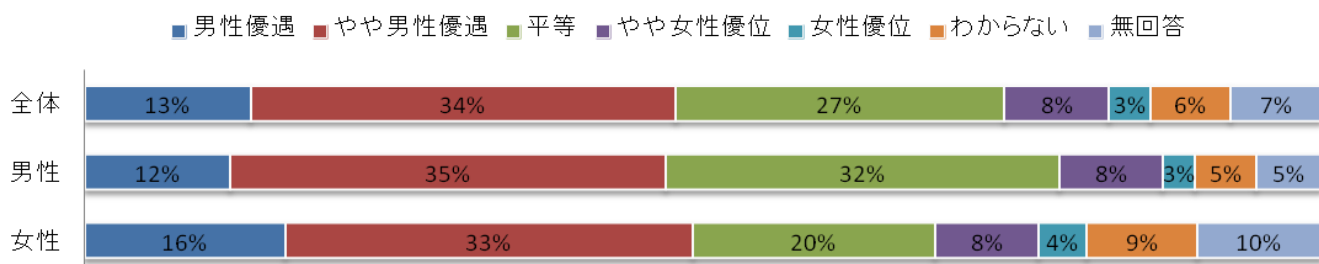


2 結果と分析

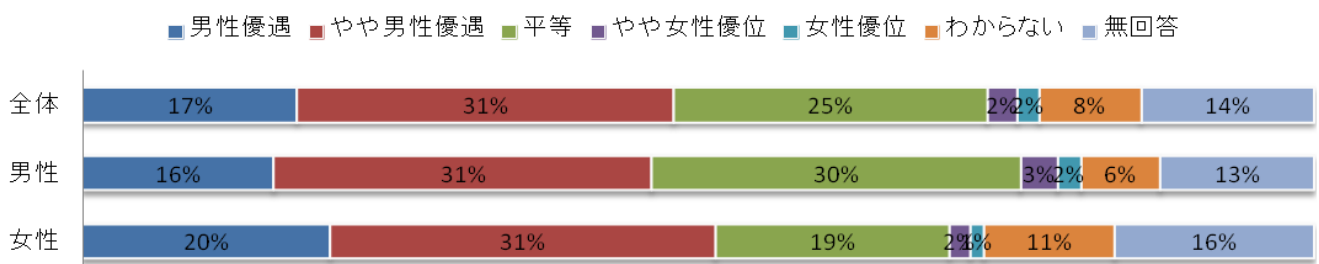
【1】男女平等意識について

問1 あなたは、次の分野で男女が平等になっていると思いますか。

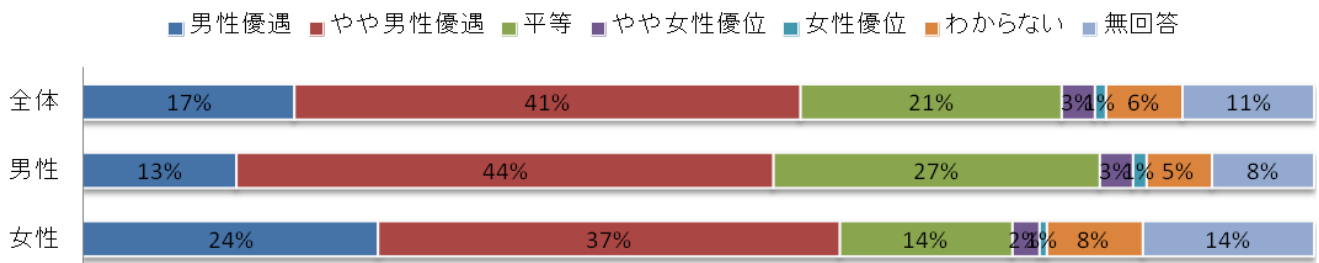
問1-1 家庭生活



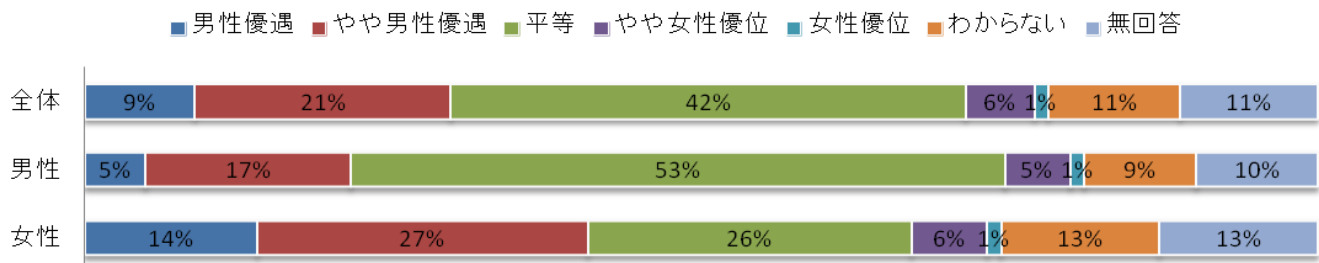
問1-2 職場



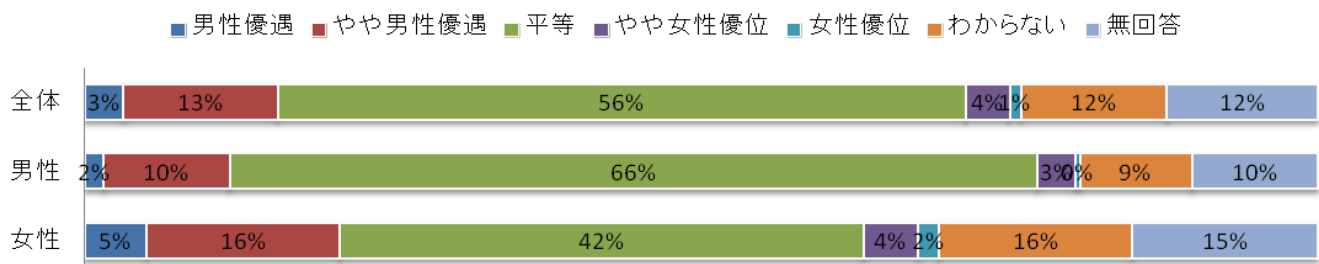
問1-3 社会慣習



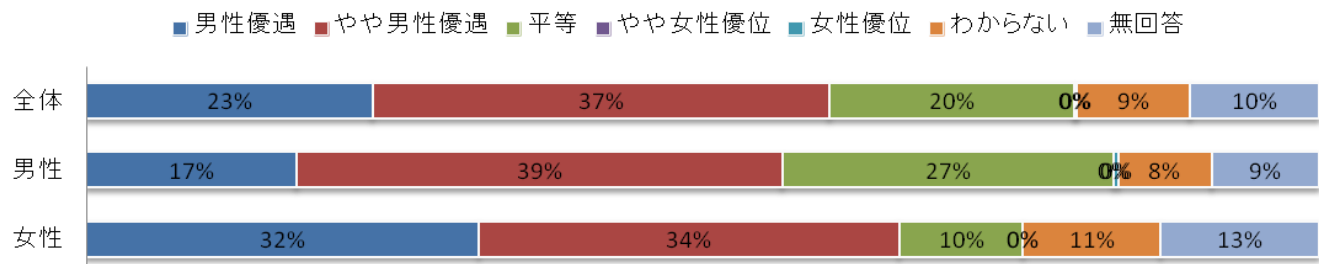
問1-4 法律や制度の上



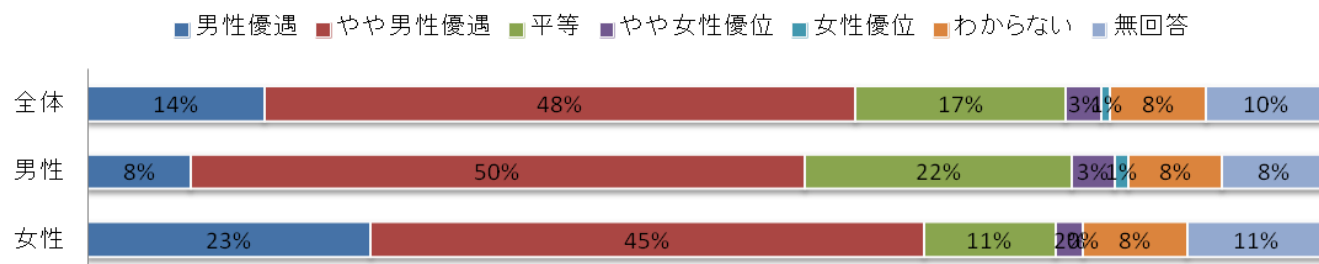
問1-5 学校教育の場



問1-6 政治の場



問1-7 社会全体



・分野ごとの「男女の地位の平等感」を全体で見ると、「平等」という回答が最も多かったのは「学校教育の場」56%、次いで「法律や制度の上」42%でとりわけ多い。

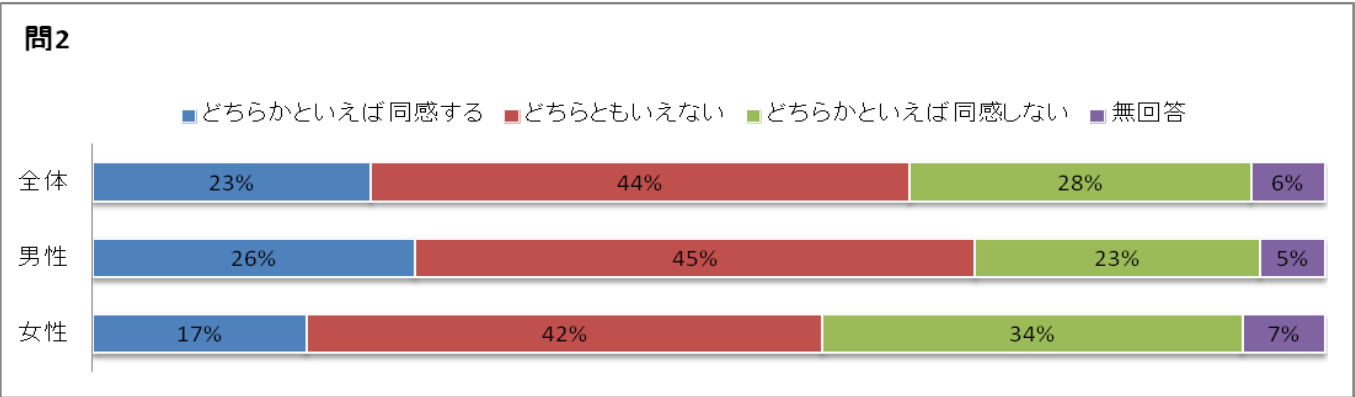
・「男性優遇」「やや男性優遇」の合計を全体で見ると、「社会全体」62%、「政治の場」60%、「社会慣習」58%、「職場」48%、「家庭生活」47%の順に多い。

・男女別に見ると、平等感の違いは大きい。全ての分野で、男性より女性の方が「男性優遇」とする回答が多い。

・女性が「男性優遇」と強く感じている分野は、「政治の場」32%、「社会慣習」24%、「社会全体」23%の順となっている。

・「男性優位」「やや男性優位」の合計で、男女の比率の違いが大きいのは、「法律や制度の上」で女性の方が19%多く、「政治の場」と「社会全体」で女性の方が10%多い。

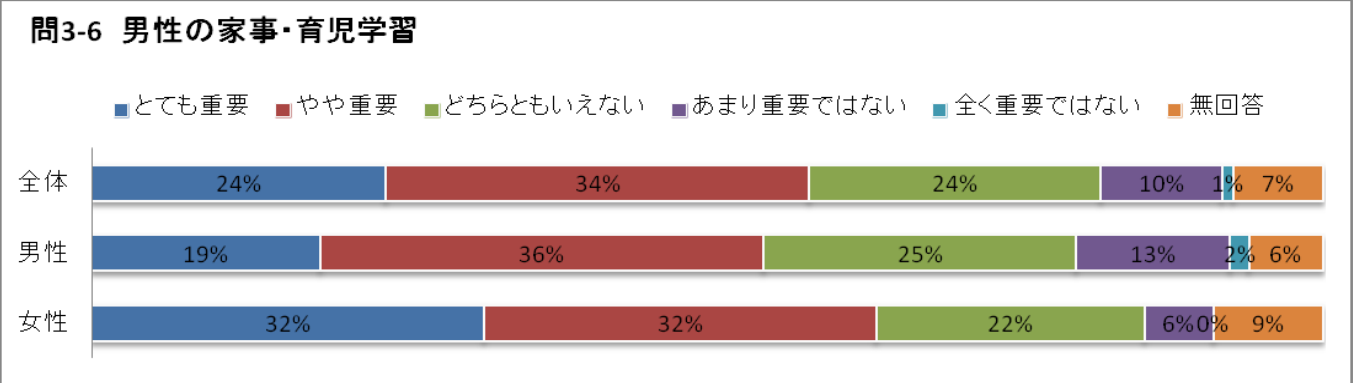
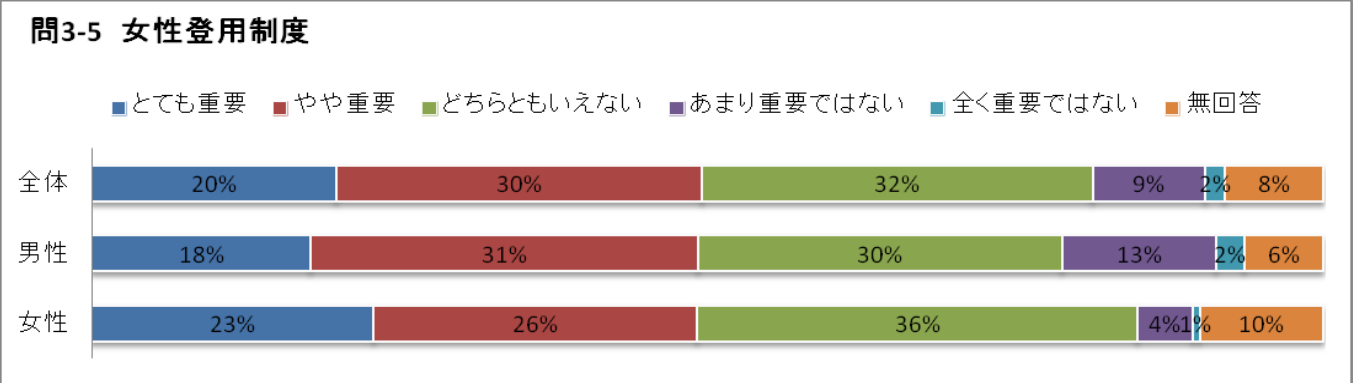
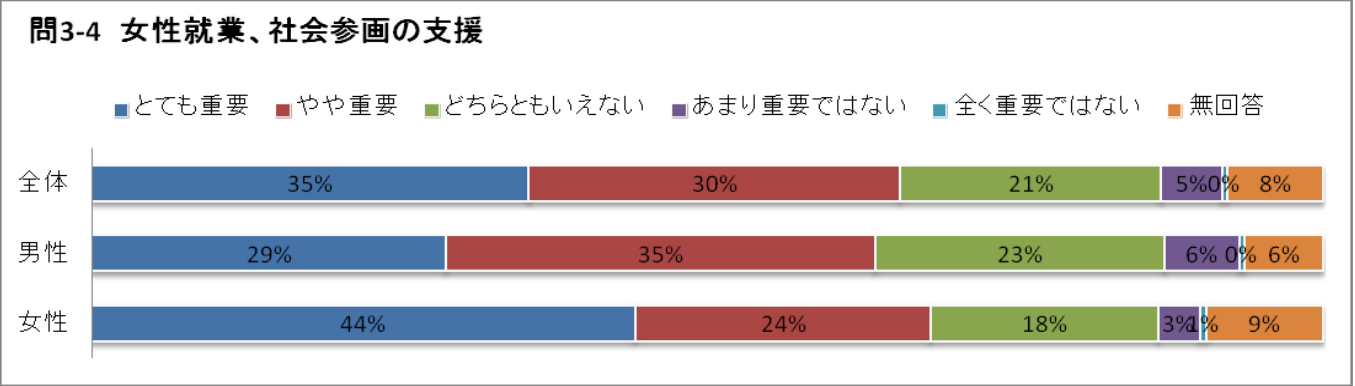
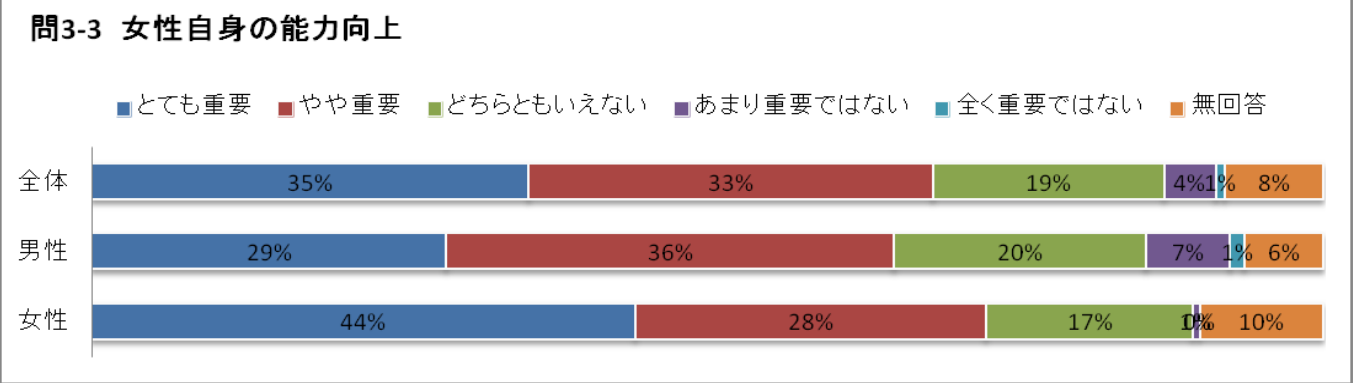
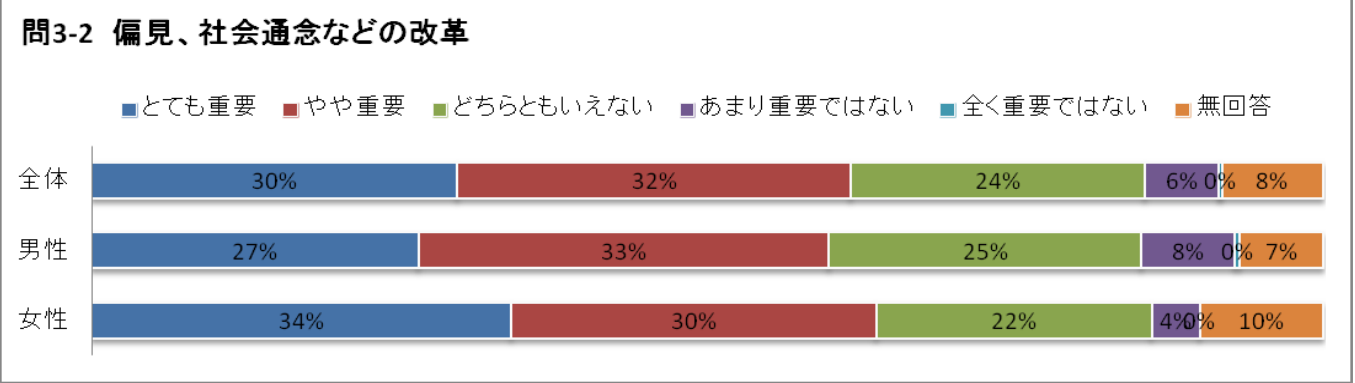
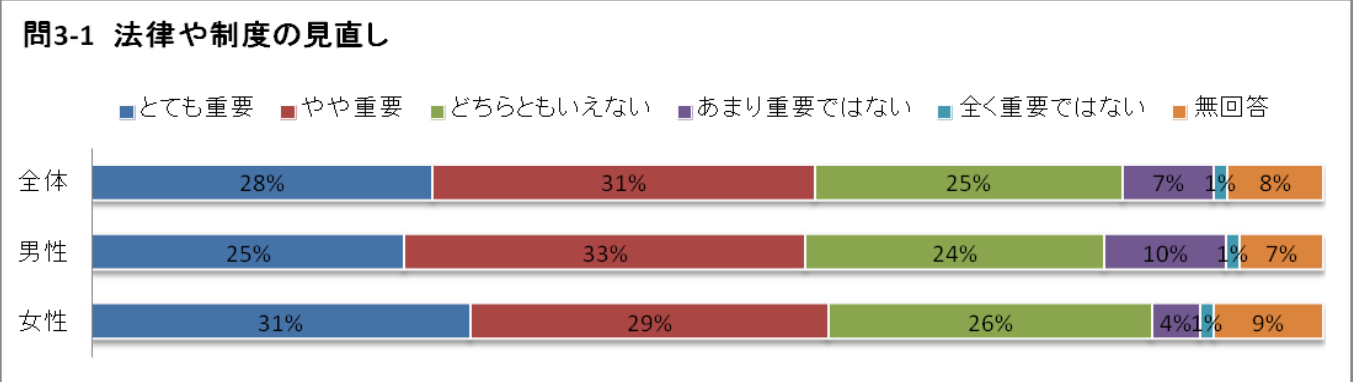
問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。



・役割分担、分業意識を全体で見ると、「どちらともいえない」が44%と高く、「どちらかといえば同感しない」が28%、「どちらかといえば同感する」が23%である。

・男女別に見ると、「どちらかといえば同感する」と回答した率は、男性が女性の1.5倍を超えた。一方、「どちらかといえば同感しない」の率は、女性が男性の1.5倍近くとなっていて、男女の考え方の違いが見られる。

問3 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、何が重要だと思いますか。



・男女平等推進に必要な制度等について、全体ではいずれの項目も「とても重要」「やや重要」を合計すると50%を超えているが、中でも60%を超えているのは、次のとおりである。

①「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を得るなど、積極的に能力の向上を図ること」68%

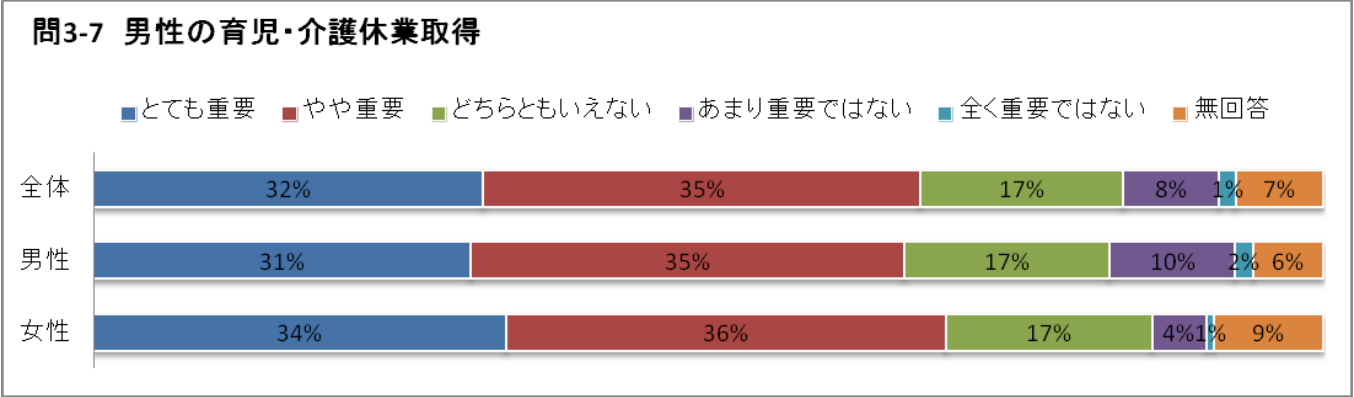
②「男性の育児・介護休業の取得を促進すること」67%

③「女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実を図ること」65%

④「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」62%

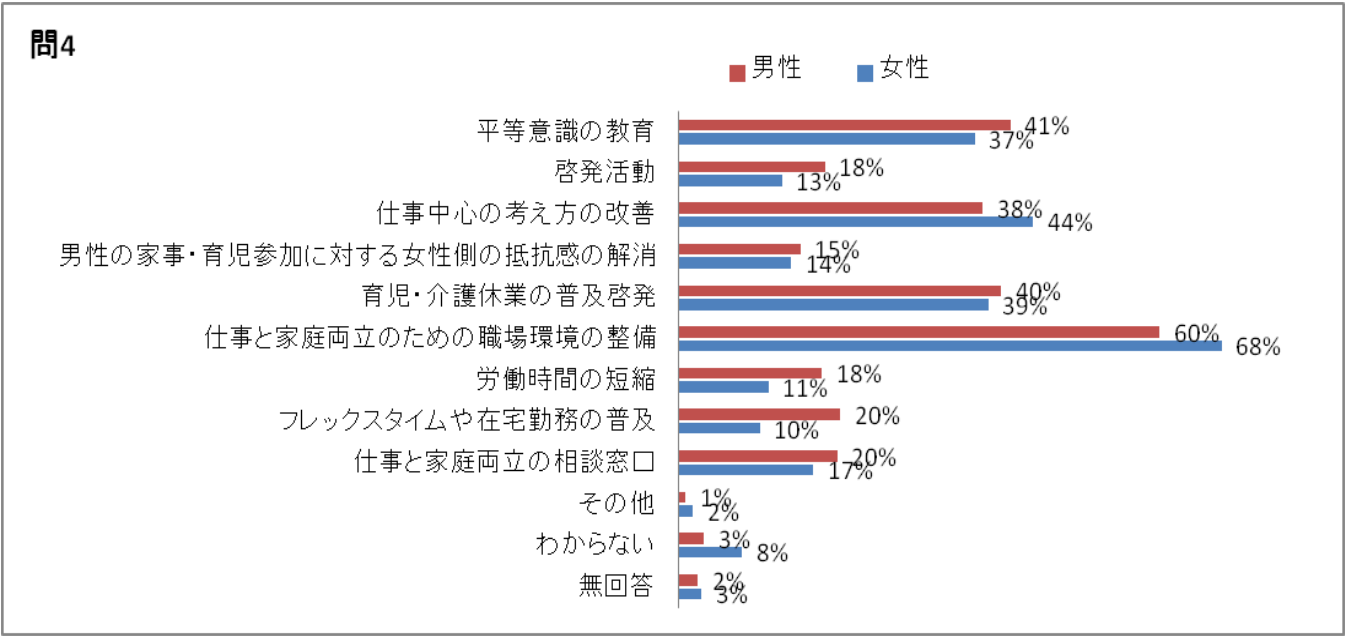
・一方、「あまり重要ではない」「全く重要ではない」の合計で多いのは、「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を設けること」と、「男性に対する家事・育児などの学習機会を設けること」で、約1割となっている。

・男女別に見ると、全ての項目において、女性の方が男性より「とても重要」とする比率が高い。中でも上記①と③については、女性の比率が男性の比率より15%ほど高い。



【2】結婚・家庭生活について

問4 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、何が必要だと思いますか。(3つまでに○)

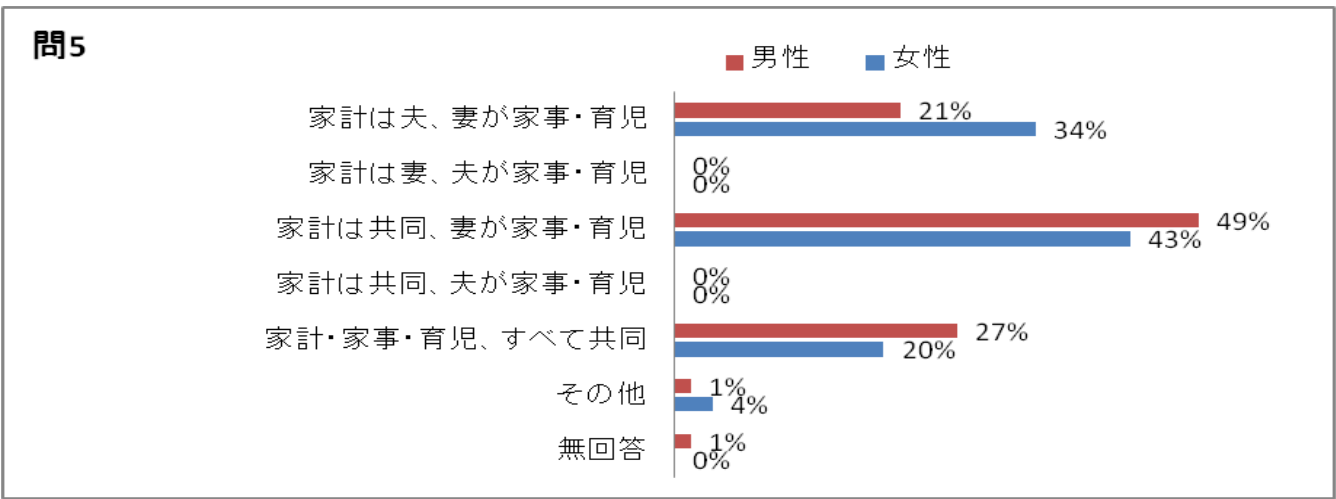


・男性の家事等への参加促進策については、男女とも、①「企業が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」が60%以上と、他の項目を引き離して多い。

・次いで、②「男性が仕事中心の考え方を改め、家事・育児などに参加しやすくする」、③「男性が育児・介護休業をとりやすいよう普及啓発を図る」、④「子どものときから男女平等意識を育てる」がほぼ同率となっていて、その他の項目については上位4項目の半分以下である。

・男女別に見ると、女性より男性の比率が特に高かった項目は、「フレックスタイム（勤務時間を自主的に決める）や在宅勤務を普及させる」、「労働時間を短縮して早く家庭に帰れるようにする」で、職場での働き方に関する項目であった。

問5 あなたの家庭では、夫婦の役割分担はどのようになっていますか。(既婚者(事実婚を含む)のみ回答)

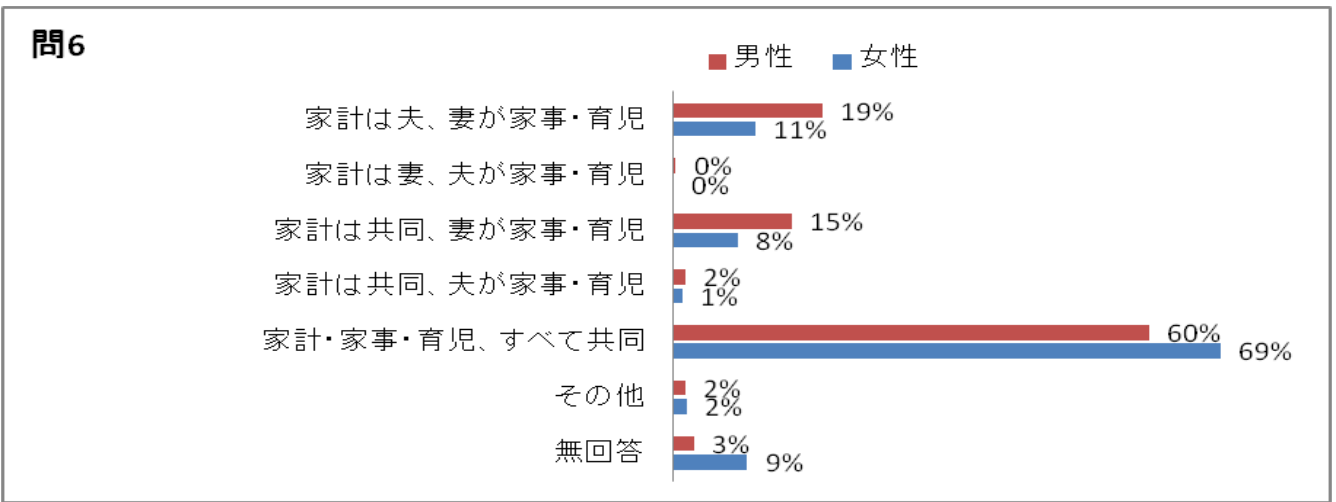


・夫婦の役割分担の現実は、男女とも「家計は共同、妻が家事・育児」が約半数近くと多い。

・家事・育児について、夫が専念または主に分担するケースは0%である。

・男女別に見ると、男性より女性の比率が1.5倍以上と高かったのは、「家計は夫、妻が家事・育児」であり、家事・育児の分担意識が男女間で違うことがわかる。

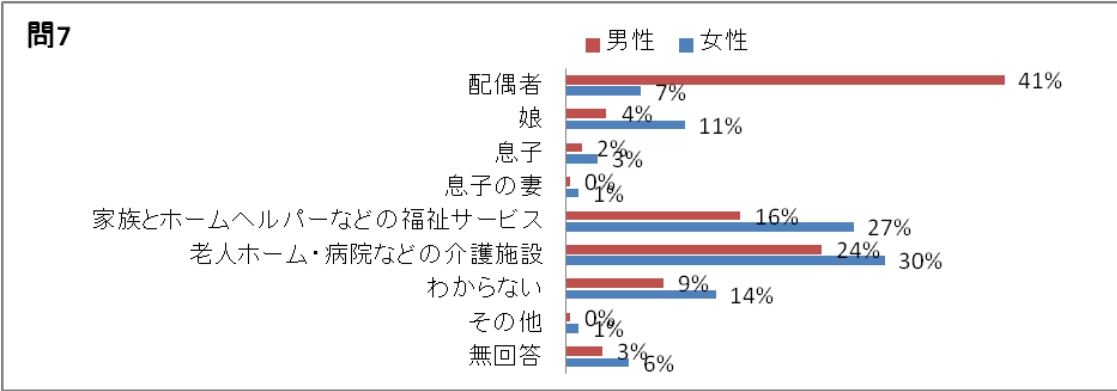
問6 あなたの理想としては、夫婦の役割分担はどのようにするのがよいと思いますか。



・夫婦の役割分担の理想は、男性の6割、女性の7割近くが「家計・家事・育児、すべて共同」と回答した。

・男女別に見ると、男性の比率が女性より2倍近く高い項目は、「家計は夫、妻が家事・育児」と「家計は共同、妻が家事・育児」で、どちらも家事・育児は妻がする方がよいという内容で、男女間の意識の違いが見られる。

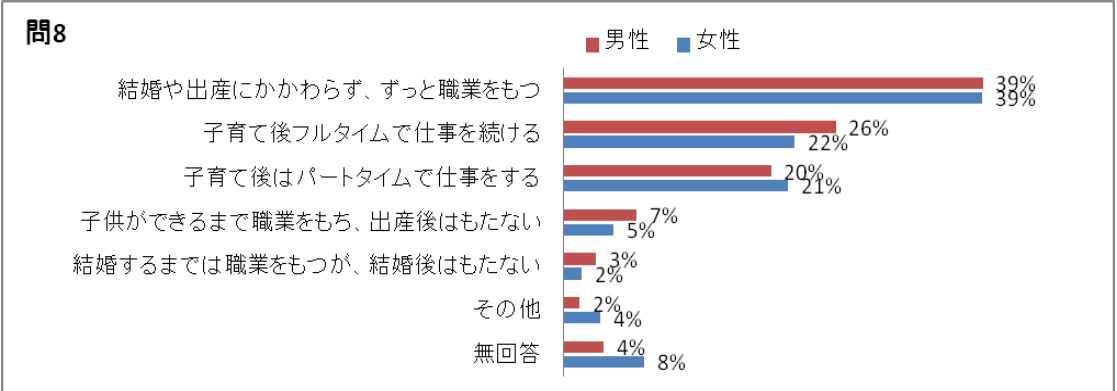
問7 あなたが介護を受けなければならなくなった時、誰に介護を頼みたいですか。



・介護を頼みたい人について、男女で回答が大きく異なっている。
・男性は、「配偶者」が4割以上と圧倒的に多く、次いで「介護施設」24%、「福祉サービス」16%となっている。
・女性は、「介護施設」30%、「福祉サービス」27%の2項目が比較的高く、次いで「娘」が11%、「配偶者」は7%にとどまった。

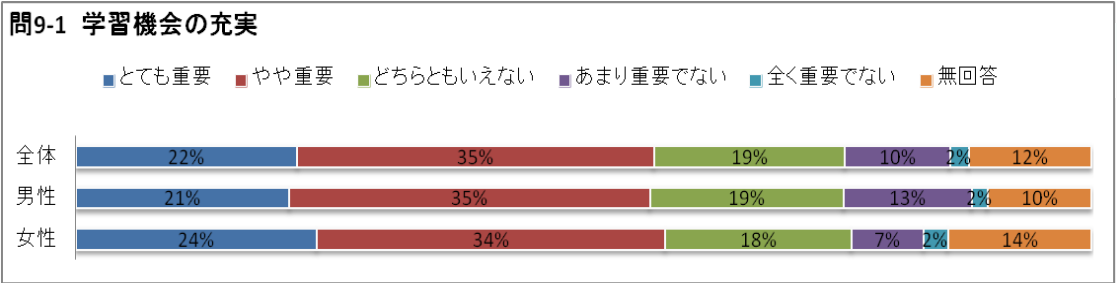
【3】働くことについて

問8 女性の働き方は、次のどれが理想だと思いますか。

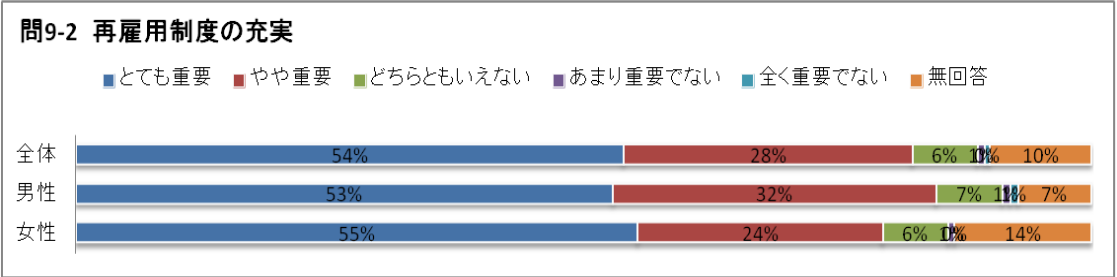


・女性の理想の働き方は、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもつ」が男女とも最も多く、4割近くを占めている。
・「育児中断後に再開」して働き続ける（フルタイムとパートを合わせて）も4割を超え、「出産退職」と「結婚退職」は1割未満となっている。

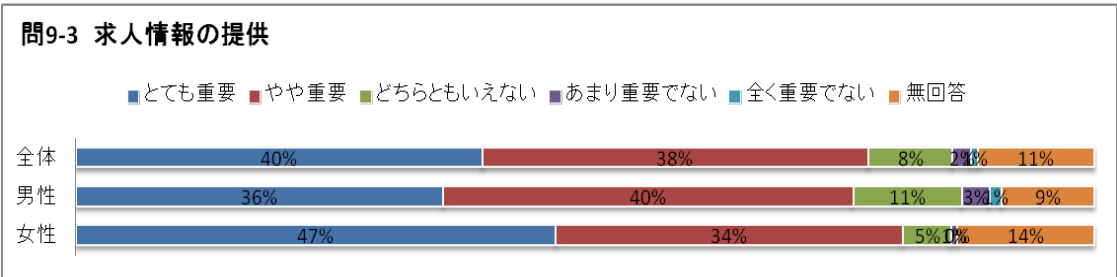
問9 女性が結婚・出産後も働き続けたり、再就職するなど社会参画を進めるためには、どのようなことが重要だと思いますか。



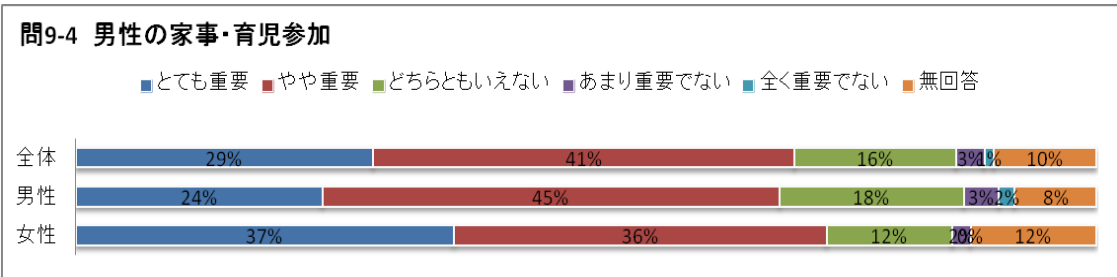
・女性の積極的就業など社会参画に必要な施策として、全体で「とても重要」の回答が特に多かったのは、①「保育所、学童保育などの子育て環境の充実」60%、②「再雇用制度の充実」54%、③「福祉施設・在宅介護サービスの充実」49%の3項目である。



・次いで、④「育児・介護休業の普及」44%、⑤「パートタイマーの労働条件改善」41%、⑥「求人情報の提供」40%がほぼ横並びとなっている。

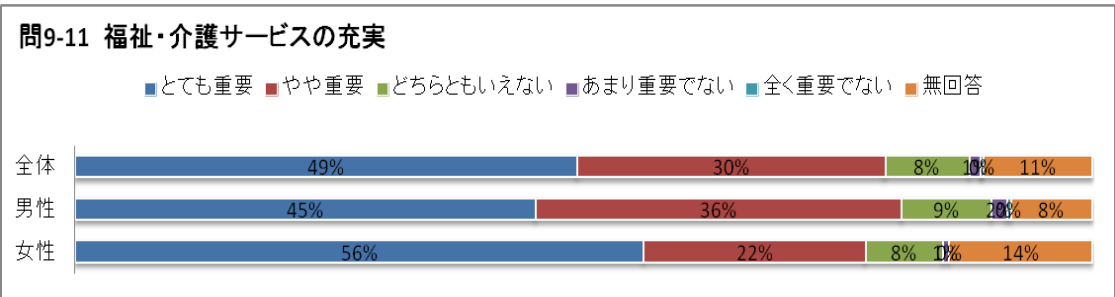
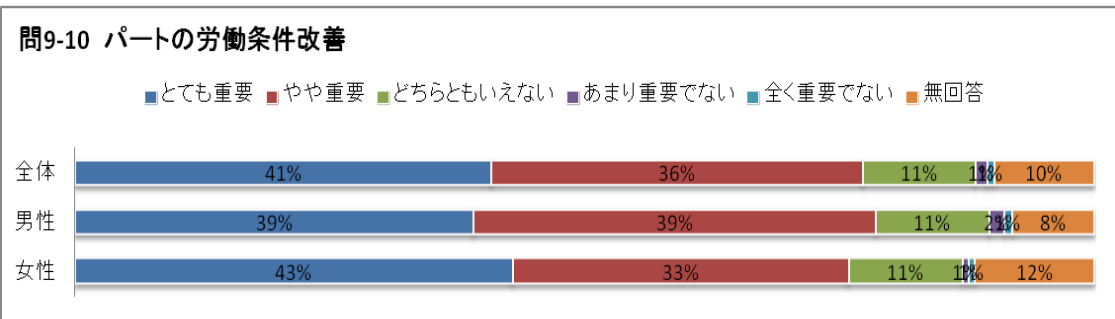
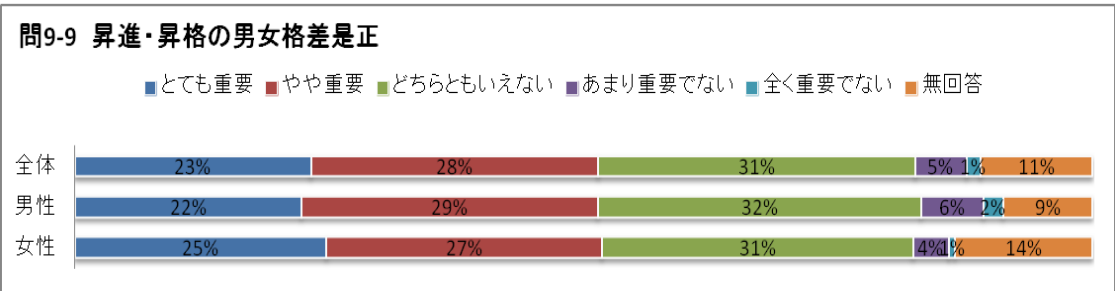
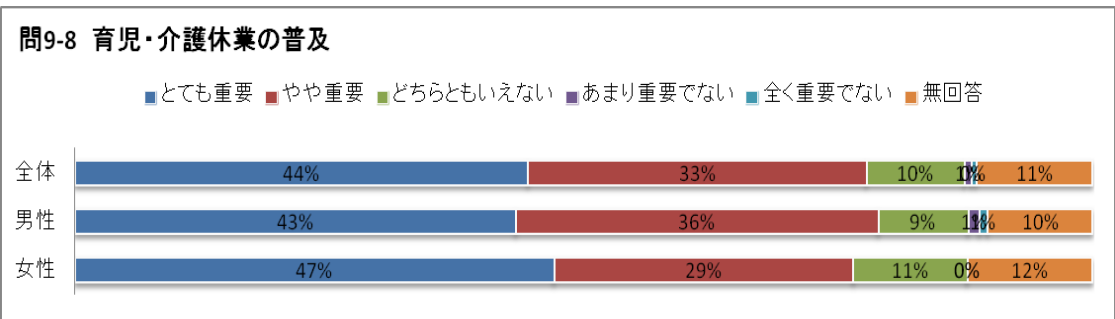
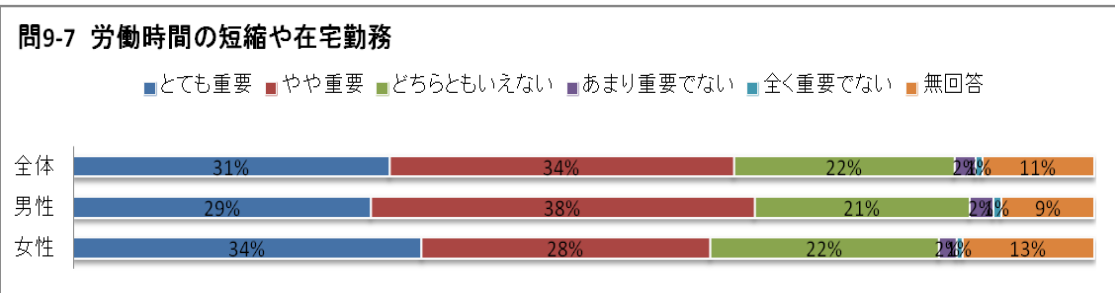
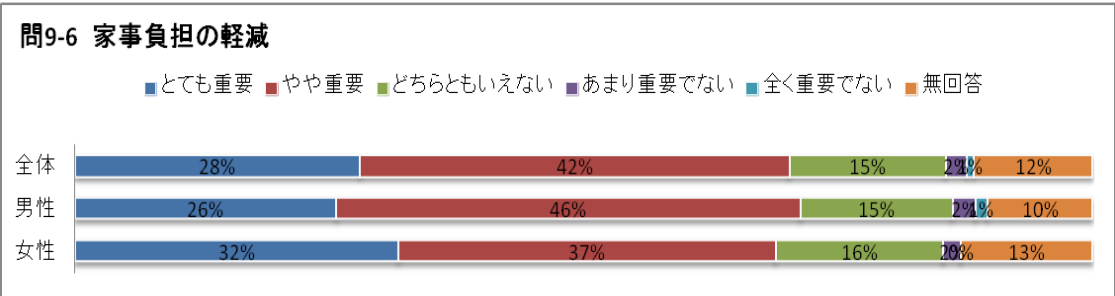
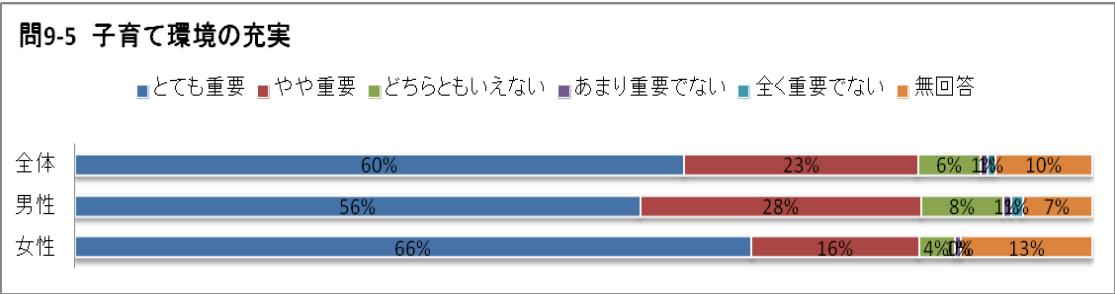


・これに対し、「あまり重要ではない」と「全く重要ではない」の合計が多かったのは、「就職のためのセミナーなどの学習機会の充実」12%、「昇進・昇格などの男女格差是正」6%である。



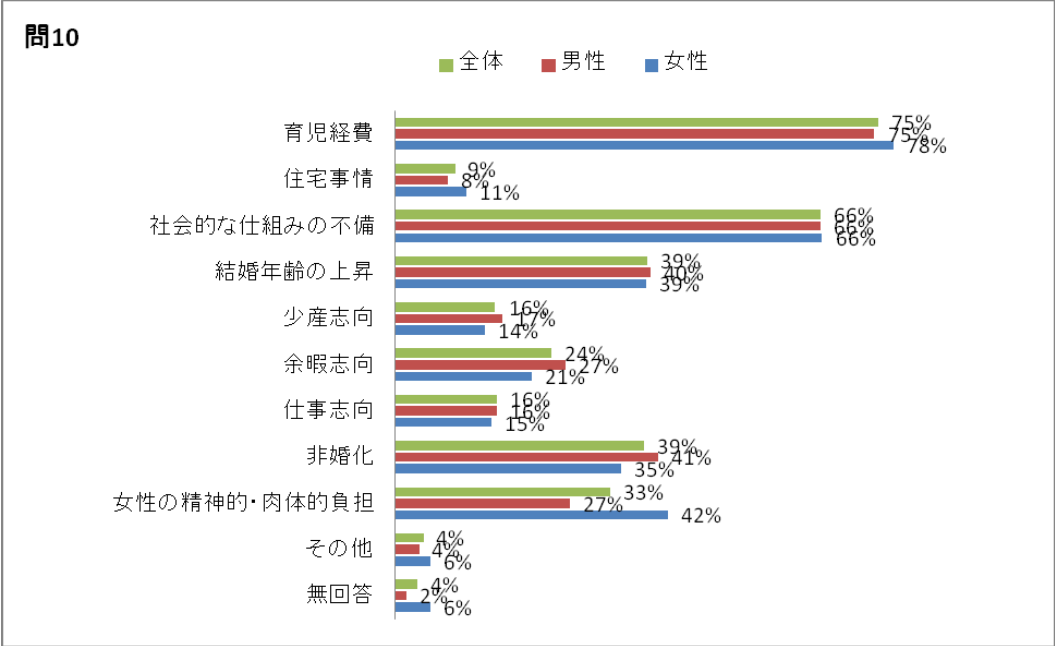
・男女別に見ると、全ての項目において女性の方が「とても重要」とする比率が高い。

・その中でも、男性より女性の比率が10%以上も高いのは、「男性の家事・育児への参加」13%、「求人情報の提供」と「福祉施設・在宅介護サービスの充実」11%、「保育所、学童保育などの子育て環境の充実」10%である。



【4】子育てや教育について

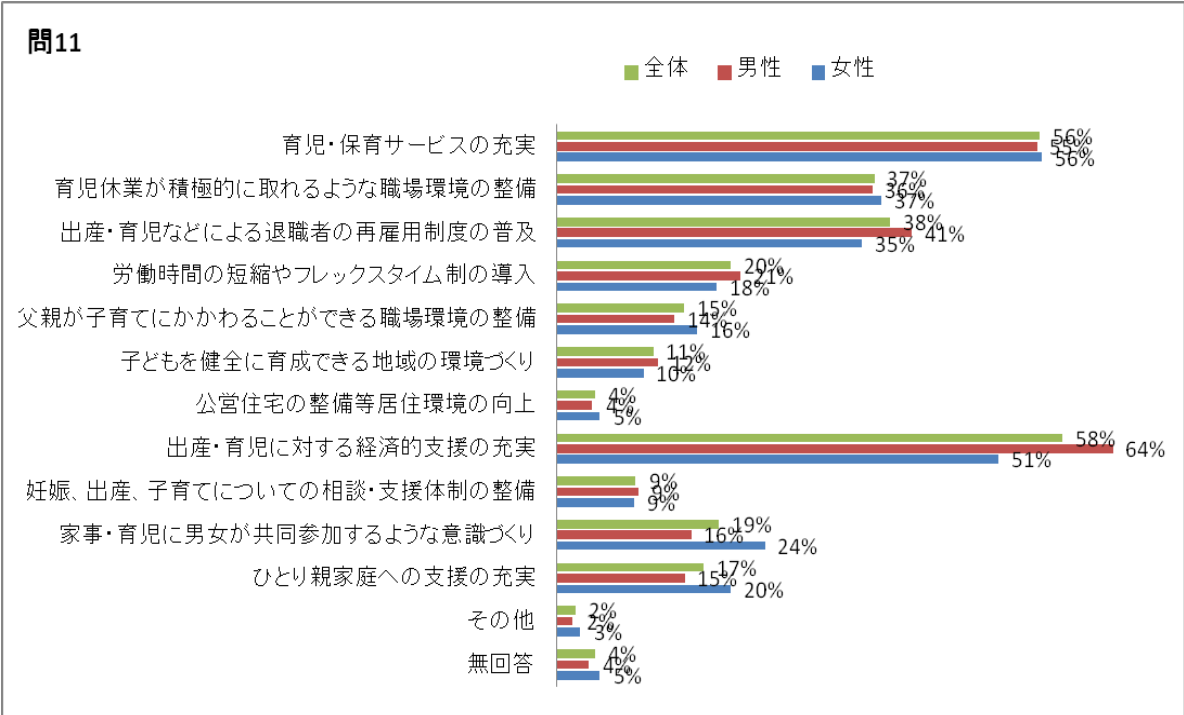
問10 1人の女性が一生の間に産む子どもの数が減少してきていますが、原因はなんだと思いますか。(いくつでも)



・少子化の原因として、全体では、「子どもを育てるのに費用がかかりすぎるから」が75%、次いで「育児と仕事を両立させる社会的な仕組み(育児休業・雇用条件・保育など)が整っていないから」が66%と、この2項目の比率がとりわけ高い。

・男女別に見ると、全体的に男女差は小さいが、女性の比率が男性を大きく上回っているのは、「出産や育児に対する男性(夫)の理解・協力が足りず、女性(妻)の精神的・肉体的負担が大きいから」で、女性が42%に対して、男性は27%にとどまった。

問11 子どもを産み育てやすい環境づくりのために、どのような施策が重要だと思いますか。(3つまでに○)

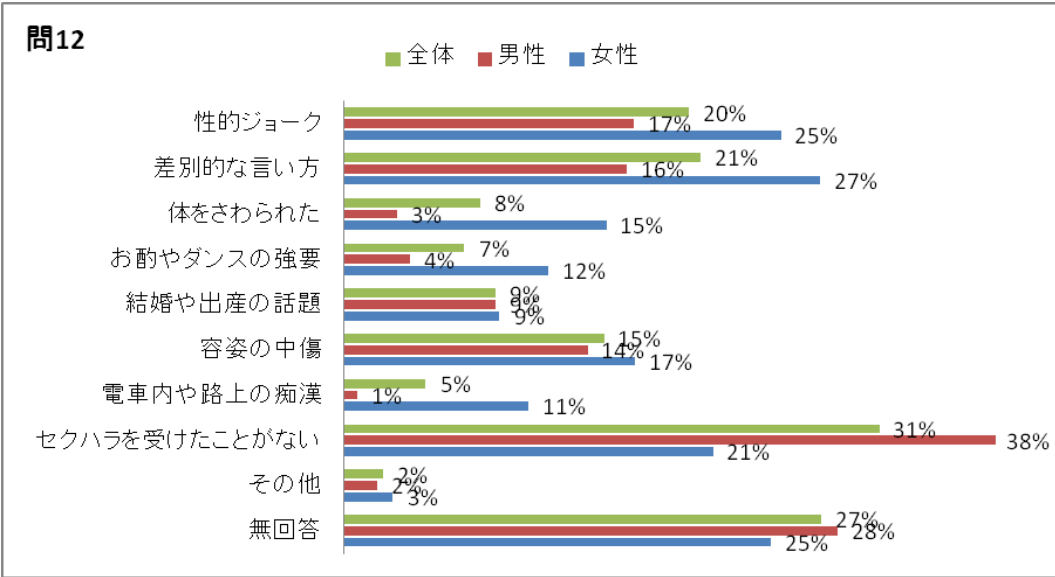


・出産・育児をしやすい環境づくりに必要な施策として、全体では、①「出産・育児に対する経済的支援(医療費、学費、養育費)を充実させる」が58%、②「育児・保育サービス(乳児保育・延長保育・学童保育など)を充実させる」が56%と、この2項目の比率がとりわけ高い。

・男女別に見ると、男女の比率に差があるのは、「家事や育児に男女が共に参加するような世の中全体の意識づくりを行う」が、女性は男性の1.5倍、「ひとり親家庭への支援(医療費、学費、生活費等)を充実させる」が、女性は男性の1.3倍となっている。

【5】セクシュアル・ハラスメントについて

問12 あなたは、いままでに職場や学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント(＝性的いやがらせ)の経験はありますか。(あてはまるものすべてに○)



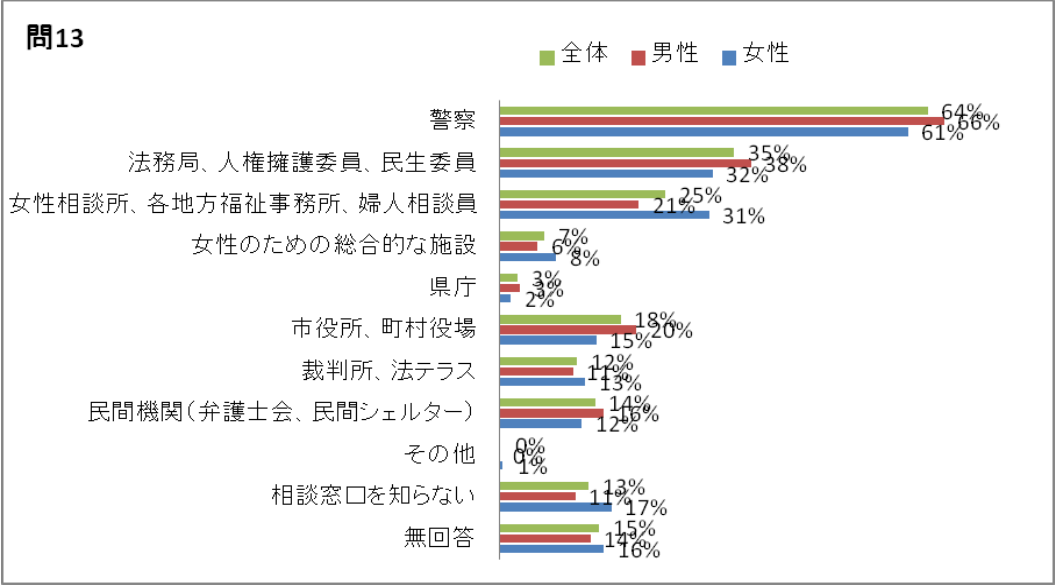
・セクシュアル・ハラスメントの経験について、全体では、「女のくせに、男のくせになど差別的な言い方をされた」が27%、「性的ジョークを聞かされた」が25%と多い。

・男女別に見ると、「セクハラを受けたことがない」のは、男性が38%に対し、女性は21%と少ない。

・中でも「体をさわられた」「お酌やダンスの強要」「電車内や路上の痴漢」など、直接的・肉体的ないやがらせの被害経験は、男性よりも女性の方がはるかに多い。

【6】ドメスティック・バイオレンスについて

問13 あなたは配偶者からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。（あてはまるものすべてに○）



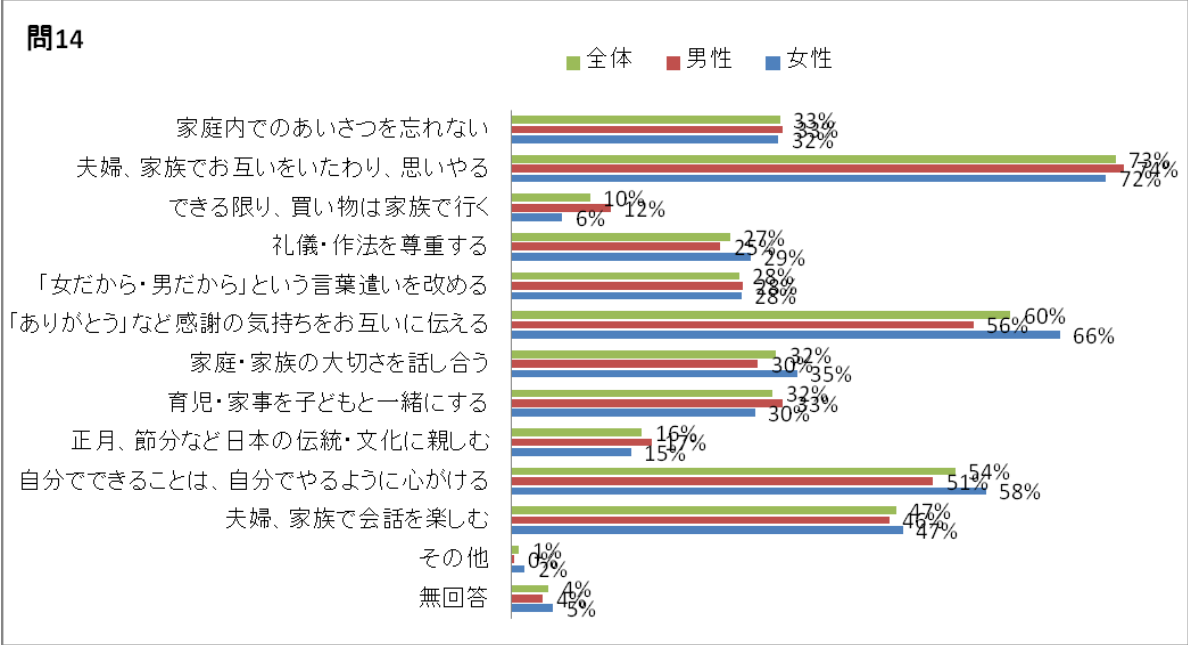
・相談窓口の認知度を見ると、「警察」が全体で64%と最も多い。

・かなり離れて「法務局、人権擁護委員、民生委員」35%、「女性相談所、各地方福祉事務所、婦人相談員」25%、「市役所、町村役場」18%となっている。

・一方、「相談窓口として知っているところはない」が全体で13%、女性では17%に上っている。

【7】男女共同参画社会について

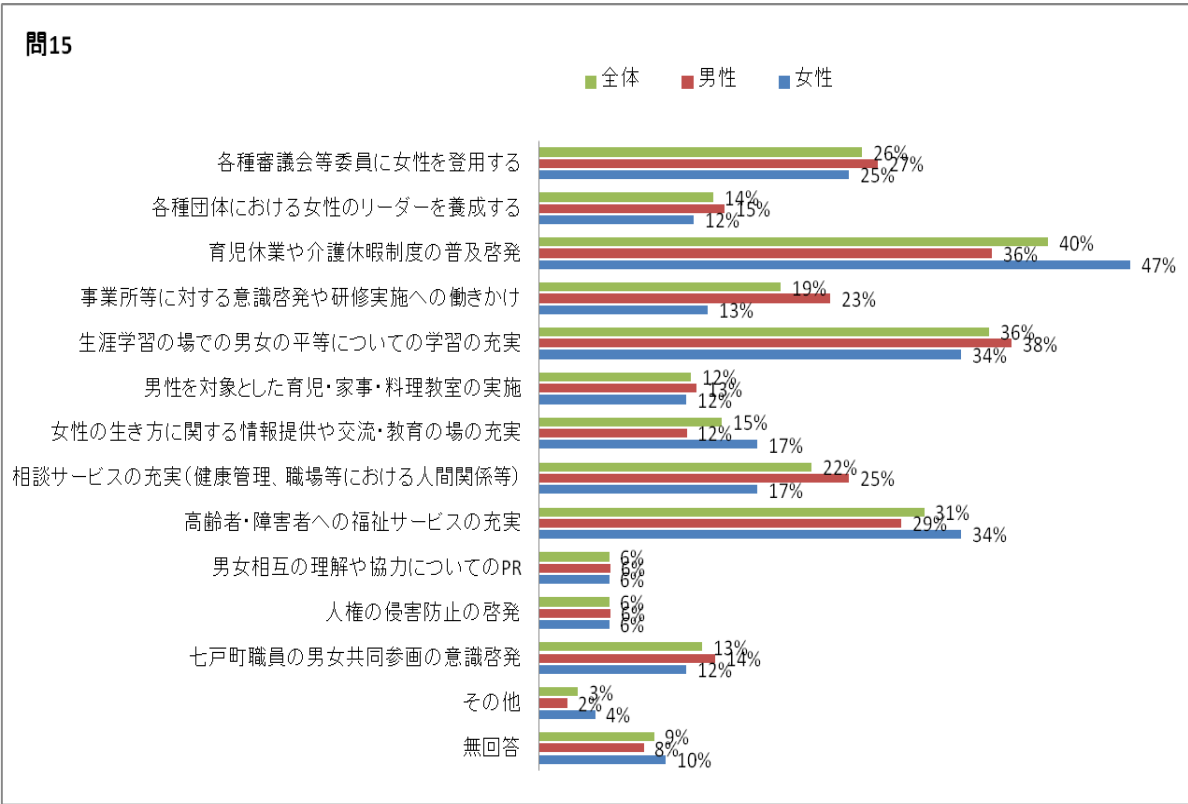
問14 あなたは、男女共同参画社会を実現させるために、「家庭や家族」でできることは何だと思えますか。（5つまでに○）



・家庭や家族でできることとして、全体では、①「夫婦・家族でお互いをいたわり、思いやる」73%、②「ありがとうなど感謝の気持ちをお互いに伝える」60%、③「自分でできることは、自分でやるように心がける」54%が、5割を超えている。

・男女別に見ると、男性より女性の比率が特に高かったのは、上記②の感謝の気持ちを伝え合うことや、③の各自が自立した生活することである。

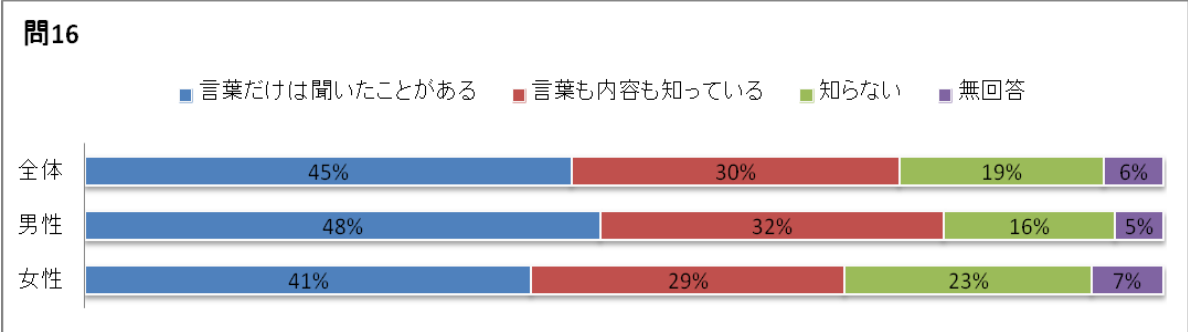
問15 あなたは、男女共同参画社会を実現させるために、七戸町が今後どのようなことに力を入れていったらいいと思えますか。（3つまでに○）



・七戸町が進める施策として町民が要望するのは、全体では、①「育児休業や介護休暇制度の普及啓発を進める」40%、②「学校教育や社会教育等の生涯学習の場での男女の平等と相互理解や協力についての学習を充実させる」36%、③「高齢者・障害者への福祉サービスを充実させる」31%である。

・男女別に見ると、男性の比率は上記の②①③の順に高く大きな差は無いが、女性では圧倒的に①の比率が高く、次いで②と③が同等となっている。

問16 男性と女性が、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に、共同で平等に参加する社会のことを「男女共同参画社会」と言いますが、あなたは、この言葉を知っていますか。



・男女共同参画の認知度について、「言葉も内容も知っている」は全体、男性、女性とも約30%にとどまっている。

・一方、「知らない」が全体では19%だが、女性は23%と約4分の1に上っている。

3 自由記述欄

・	形式的なアンケートなら経費の無駄になる。このアンケートをもとに、七戸町から何かを変えられるようにしてほしい。形に表してください。結果報告をして下さい。(30代女性)
・	男性の立場を理解せず、女性の権利だけを主張する女性は啓発が必要(20代男性)
・	住みよいまちづくり(30代男性)
・	男女協同参画社会という言葉の上に女性があぐらをかいているのではないか？(60代男性)
・	女性が安心して産み育てる環境の充実(50代女性)
・	男性の意識を変える必要があると思う(女性が参画することを男性は喜んでいない？)。若い男女は男女平等になってきていると思う。田舎の人達も都会の人達のように個人の意見をはっきり言えるように、そして、認めるようになったら、発展して住み良い町になると思う。(50代女性)
・	このアンケートが統計上のデータに生かしてもらえることは大変嬉しく思います。今後もこのような生の声を抽出してもらえるなら、何らかの形で町民に生かした形に残してもらいたい。(30代女性)
・	女性が男女共同参画をきちんと理解することが大切。「私は女だから…」などの都合の良い立ち振る舞いを行わないような呼びかけなどが必要だと思う。男性についても同様。(60代男性)
・	男女参画社会の推進はいいことだと思うが、結婚し子どもを産み育てる女性が敵視されたり、家事や育児や地域活動を担う専業主婦が逆に蔑視を受けないような施策を望む。(50代男性)
・	新幹線開業で、駅周辺等で充実したものが出来るのか？十和田市の方が新幹線の客に対しホテル等が充実している気がする。ハイブリッドバス等の導入により観光客に対してのサービス、地球に優しいイメージ等(30代男性)
・	町民の意識を聞くことは重要。調査結果を町民が知ることにより互いの意識を認識できるようにして欲しい。男女共同参画社会の基本法が施行されてから世の中は少しずつ変化していますがまだまだ国民1人1人の意識は薄い。町単位で意識を変えていくことは大事ですので、ぜひ何らかの結果を出してください。(20代男性)
・	男女共同参画社会実現のための七戸町の取り組みはまだ不足していると思います。充実に向け努力して欲しい。(60代女性)
・	地元で就職出来るようになればいいと思う。駅前だけでなく、他の地区もっと盛り上げて欲しい。(20代女性)
・	「男女平等」という言葉だけが先行し、中身が伴っていない男性社会であるのが現実。より一層の普及啓発を望む(30代女性)
・	男女平等というが本当に全て平等でいいのか？男性、女性の役割があってしかるべき。女性の社会における地位向上には賛成だが何でも平等はどうなのかと思う。(40代男性)
・	今後アンケートはお断りしたい(40代男性)
・	一人暮らしの高齢者に月1, 2回声掛けをしましょう(50代男性)
・	男女共同参画の視点だけでは実行性が薄い。社会の仕組み、生き方の意識を変えなければならない。現在の休暇制度が十分に活用できないで居ると思う。(60代男性)
・	男女共同参画について問題意識を持たせるところから始めなければ改善は無いのではないか？(40代男性)
・	本気でやりたいのであれば「啓発」ではなく何かしら「実行」をするべき。小学校からでも教育に「男女共同参画社会」ということを教えていけば良いと思う。(20代男性)
・	職場、地域社会、政治など、女性の参画社会が不足していると思うので平等にしたらよい(70代以上男性)
・	男女平等は無理だと思う。根本的に体のつくりや能力は簡単にえられるものではない。お互いに理解、協力し合う関係を家族や男女間で維持できればよい、そこには経済的に安定する事も必要で、雇用や社会情勢も良くなければ成立しないと思う。貧富の差もなく、みんな平等に近い権利が得られることが望ましい。(40代男性)
・	このアンケートがどのように使われ、アンケートをしてメリットがあるのか？無駄な経費ではないか？(60代女性)
・	共働きが当たり前の厳しい社会ですが、最近の若者は、育児・家事等も男性の協力のもとやっていますが、まだまだ女性の家庭内での仕事は多い。親との同居(男性が家事に手を出す習慣に慣れていない世代)などは厳しい。幼少からの意識改革が必要だと思います。(50代女性)
・	男児共同参画社会も大切だが、そもそも根本的に男女は生物学上違うということもとても大切では？(40代男性)
・	特別「男女共同参画」を強調しなくてもずいぶん女性の立場が強くなっている。頭でっかちにもなっている。それより女性として男性にはできない特典、例えば出産の喜びなど「女性の幸せ」を上手に伝えていける中高年になりたい。賢い我慢の仕方を息子、娘に教えられる親が少ないから自分の立場だけを主張したがるように思える。「男女共同参画社会」という器だけを作っても中身は変わらないと思っている。(50代女性)
・	時代と共に世の中も変化してきています。全国的に働く場所が少なくなり60歳過ぎても働きたい人はパートでもいいから働きたいと思っている人は大勢いると思います。母子家庭、父子家庭の人には特に厳しい状況ではないでしょうか。七戸町にももっと働ける場所があるといいとおもいます。いくら「男女共同参画社会」といっても働く場所が少ないと「男女共同」といっても意味がないと思います。(60代女性)
・	男女共同参画社会になると出産がもっとすくなくなくなると思います。(50代男性)
・	平等の定義が問題と思う。性別の違いというより、男女の特色であるので補い合うという思考、行動は男性のDNAには不足している。(40代男性)
・	女性が子どもを産んで育てるためには仕事をやめなければならないのは変だと思う。2人目を作りたいとは思いますが子供のために働かなければならないし1度仕事をやめると就職するのが難しいので子供をつくれない。(30代男性)
・	小学校、中学校と礼儀、作法、相手への思いやり、命の大切さに時間取り日頃から教育の場でも学習機会が必要。(50代男性)
・	あまり意識づけばかり強調されてもうまくいかないと思う。(50代男性)
・	アンケート調査はよいことだと思う。但し、その集計は恣意的に歪曲されないようにしてほしい。(40代男性)
・	町民の意識変革は容易でないが、継続的な取組が必要だと思う。(50代男性)
・	問12、13は男の方から見ると答えに入れない。(年代・性別不明)
・	さんかくか、さんがか、読み方を説明することも必要。女として自分に甘えている部分もあることは事実です。(50代女性)
・	町に働く場所が沢山あれば子供も増え収入もあり全体的にゆとりが持てるのではと思う。(50代男性)
・	地域社会での女性の社会進出は重要だが、出産後は仕事を持たないのが望ましいと思う。(40代男性)
・	子供が体調不良の時など融通が利く職場でないと不安がある。理解ある職場が増えて欲しい。(20代男性)
・	精神的、肉体的に違う男女が共同で平等に参加する社会を作るのは難しいと思う(50代男性)
・	各種委員の登用も極端に少ないが、一度就任したら女性委員でも必ずサポートする体制が必要と思われる(60代男性)
・	平等を追求するよりいたわり、認め合い、努力することを啓発すべき。(50代男性)
・	結果はどこで知ることが出来るのか？これまでのアンケートを活用するためのシステムはどうなっているのか？(50代女性)
・	失敗してもリスクのない人がこのようなアンケートを取っても良くならないと思う。(40代男性)
・	もう少し福祉に力を入れて取り組んで欲しい(40代女性)
・	男女共同参画社会はいいとしても、このことを女性が勘違いしている部分があると思う。ややもすれば男性よりも前に出ようとするのがあり、世の中は乱れてきている部分が多くあり、問題が多くなってきている。(60代男性)

・	七戸町に住んで、希望、サークル活動、若者の楽しめる町に努力してください。町に活力・活気が感じられません(60代女性)
・	調査票などのアンケートに返答することで考え方や意見を見直すことが出来て良い。(20代女性)
・	不妊治療の無料化(妊娠するまで)を実現させて欲しい。(40代男性)
・	すべてが、共同になることはできない。きちんとアドバイスがないと意味がない。(30代女性)
・	求人条件が悪く働く場所がない、夫の収入が頼りで「男女共同参画」といわれても、実現性がわからない。(30代女性)
・	何事に対しても行政に頼る傾向があると思います。どういう行政の補助施策があるか、自分で確認し、生活に対する意欲が必要だと思います。(50代女性)